

NEW



holbein

ホルベイン工業株式会社

東京都豊島区東池袋2-18-4

TEL.03(3983)9251

大阪府東大阪市上小阪1-3-20

TEL.06(6723)1554

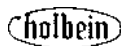
www.holbein-works.co.jp

他の絵具と併用して絵画の技法が大きく広がる。また、溶剤のアレルギー問題も一掃。表現の可能性までグレードアップした。水で描ける——次世代油絵具「アクアオイルカラー」「デュオ」

アーティストレベルの水可溶性油絵具としてリニューアルしたホルベイン「デュオ」。より専門アーティストからの声に応えたカラーラインアップが図られた。従来から親しまれてきた色名に戻し、色によっては新たに顔料から見直して処方の改良も行なった。さらに、カドミウム系やコバルト系の色も追加。透明色から不透明色まで、全100色が勢ぞろいしたのだ。もちろん、油絵具でありながら水に溶ける。



色のグレードアップという、進化。



太郎千恵藏

《未来の幽霊^{ゴースト}》としてのヴィジョン

倉林靖=文

Text by Yasushi Kurabayashi

I993

「子ども服がモーター仕掛けで近づいてくことで、鑑賞者と作品の間に新しい空間ができるのです」



1993年、第45回ヴェネツィア・ビエンナーレ特別展「スリッパメンテ」に、ダチョウのロボット作品を出品した。運河に臨む教会の前で、仕上げを施した



ポストヒューマンワークス 1990-92 衣服、ワックス、モーター付き台車ほか 各29×37×19.5cm ヨーロッパ5都市を巡回した「ポストヒューマン」展に出品(写真はイタリア、トリノのカステッロ・ディ・リヴォリでの展示風景)

先ごろ、第一生命のギャラリーで開かれた太郎千恵藏の個展は、彼のアーティストとしての歴史を概観しながら、最新の展開も見ることのできる優れた展覧会だった。ことに、ツインタワーのヴィジョンの現出をモチーフとした新作のペインティング群は、特異な色彩と構成を持ち、見る者に強烈で圧倒的な印象を与えていた。彼の存在は、いわゆる「日本のネオ・ポップ」の出現と同時に脚光を浴びてきたが、他のどの作家の表現とも一線を画しつつ、常にきわめてユニークな位置を維持しているように、筆者には思えるのだ。

この「太郎千恵藏」というアーティストとしての人格が背負っているのは、まさに「美術史」そのものである。「アートはコンセプトと、そして『コンテキスト』が大事だと思う。それが、いわゆる『美術史』をつくるのです」。80年代半ば、新表現主義真っ盛りの時期にピーター・ハリーがネオ・ジ



四月のドラゴンあるいはイーストアジアンセンチメンタル 1996 パネルにコラージュ、油彩 360×540cm

1996 「アニメや特撮、ゲームなどのイメージは、 我々が絵画を描くときには無視できないものでした」


 エンカウンター・プロジェクト
2001 キャンバスに油彩
91.5×152.3cm 大分市美術館蔵

オ系の作家をキュレーションした
展覧会に、強烈な印象を受けた。
「それは従来の流れの切断と接続
だった。そこから、コンテキストの
つくり方を勉強しました」。

少女のワンピースを使った作品
は、アラン・ジヨーンズのキュレ
ーションによる「見えない身体」展
で初めて発表された。ネット／情
報時代の新たな身体性の表出であ
る。このときはイヴ・クライン、
デニス・オッペンハイム、ヨーゼ
フ・ボイスらの作品と一緒にだつた
が、これを見たジェフリー・ダイ
チが「ポストヒューマン」展で、
ジェフ・クーンズ、デミアン・ハー
スト、マシユ・バーニールと

もに太郎の作品をさらに新たなコ
ンテキストに組み入れた。「アラ
ンとはソーホーのカフェでこの
テーマをつくっていきました。ま
た『ポストヒューマン』展では移
動ごとに作家同士で飲んで切磋琢
磨し合った。僕とデミアンとジェ
イ・ジョブリンと一緒に誕生会を
やったとき、僕がジェイにあげた
クマ型のポテトチップスを首と胴
体に切った作品を、デミアンが横
から食べちゃったことも。あれが、
デミアンが作品を輪切りにするヒ
ントになったのかもしれない
よ。美術史では、悪ガキの悪巧み
が世界を覆っていくような、ヴァ
ナキュラーな要素が、ある日大き
くなっていく」。

子ども服の作
品からは生身の
「身体性」は消
え、服装が社会
階級的なアイデ
ンティティー
(カトリックの

2008 「絵画によって、人は現実以上のものを見る体験ができるのです」



未来は幽霊のもとに 2008 キャンバスに油彩、コラージュ 201.3×427cm

豊かでない層における晴れ着。親が子に投影する「天使性」という願望を規定し、そして内蔵されたモーターによって近づいてくる攻撃的な幼児性は、私たちの内なる「他者性」を強く印象づける。その後の彼の諸テーマが重層的に表現されているのだ。

その後、身体の高ブリッド性を強調した「ダチョウ」や「バナナ羊」の彫刻、あるいは古典絵画を下敷きにしながらかアニメや特撮のモチーフを取り入れた絵画をはじめ、様々なタイプの制作が行われるなかで、「90年代半ばくらいから、ペインティングを自覚的に、本格的にやろう」と思いはじめる。さて、筆者に特に興味深いのは、現在の太郎千恵蔵の絵画が持つ様々な理論的背景である。「(ニューヨーク州立大学アルバニー校教授の)トム・コーエンがヒッチコックの映画に即しながら述べていることですが、映像は、ひとつの物(質)性を、言語を超

えた記号以前の痕跡・身体性を持っている。デリダの『アーカイヴ』という概念です」「言語を超えた、現実の裏にあるファントム、イリュージョンのようなもの。アートによって人は現実以上のものを見る体験ができるのです」。

この理論は、ニューヨークに暮らしていた2001年、WTCへと低空飛行する旅客機を間近に仰ぎ見てしまった彼が今抱いている、アートの社会的役割という意識と密接につながっている。「アートはヴィジョンを提出するもの。視覚であると同時に、視覚を超えた、視覚以上の指針です。絵画を見つめることは、未来を見つめるということではないでしょうか。こうしたことを、彼の絵画はどのように実践しているのか。「ドゥルーズが『シネマ』の中でベルクソンを援用して言っていますが、なぜ静止したコマの連続の映画を『動いている』と知覚するのか。人間は止まっているものを動いて



ニューヨークのロフトと軽井沢のアトリエで制作している。取材に訪れたのは平日で、ガソリン高騰の影響か日本有数の別荘地も車が少なく閑散としていて、アトリエは深い森の湿気と涼気に覆われているばかりだった Photo Kenji Morita

いるように見る性質がある。だから『絵画は動く』のです。絵画の動く特性を意識すること。いかに動かすか、ということが絵画の大きな要素です」「私の絵画は層になっています。手前、中間、奥という順番による空間と、それが反転し、動いていく。これはハンス・ホフマンが提唱しニューヨーク派の画家たちが奉じていた『プッシュ・アンド・プル』という、絵具を価値として捉える考え方です。ものの外側を写すというミメシスの捉え方を超えて、色と形の効果を最大限に利用して、絵画がヴィジョンになるのです」。

エイリアンや(『スターウォーズ』)のジェダイをモチーフにした絵画が描かれつつある彼のアトリエが緑豊かな軽井沢にあることには、やや奇妙な感触も覚えた。しかし「産業革命以来のシステムが立ち行かなくなった今、アートは何かものの見方を変えていく手助けができないか」と語る彼の独

特な風貌を見ると、この取り合わせもまた自然なことのように思えてくる。キュレーションによって歴史のコンテキストをつくり出すことも含め、今後、時代は彼のようなアーティストをますます必要としていくのではないだろうか。

●くらばやし・やすし「美術評論家」
7月3日 長野・軽井沢の作家アトリエにて取材

たろう・ちえぞう

1962年東京生まれ。ニューヨークを拠点に制作活動始める。93年ヴェネツィア・ビエンナーレ「スリットメンテ」に出品。個展に92年に白石コンテンポラリーアート・プロジェクトルーム(東京)、93年サンドラ・ゲーリングギャラリー(NY、94、96、99年)、スカイ・ザ・バスハウス(東京、2001年)、96年小山登美夫ギャラリー(東京、99年)、02年「アモラスプロジェクト」(府中市美術館、東京)ほか。またグループ展に92年「ポストヒューマン」展(ヨーロッパ各地を巡回)、96年「TOKYO POP」展(平塚市美術館、神奈川)、98年「マンガの時代」(東京都現代美術館)、「VOCA 展」(VOCA奨励賞受賞、上野の森美術館)、「アート・トランス・ペナイン」(テートギャラリー、イギリス)、01年「マイ・リアリティー」(ブルックリンミュージアム、NY)、07年「戦争と芸術 美の恐怖と幻影 II」(ギャルリオーブ、京都)ほか。展覧会企画に04年「リボンの騎士の秘密の森」展(MY Art Prospects、NY)、07年「イリュージョンの楽園」展(MA2 Gallery、東京)がある。8月2日～9月21日、トーキョーワンダーサイト本郷にて「O コレクションによる 空想美術館 太郎千恵蔵の部屋-ポストヒューマンアーティスト」展が開催。